

## 令和5年度 第2回ミライニ運営評価審議会の会議録報告

日時：令和6年2月28日（水） 午後1時30分～午後3時20分

場所：ミライニ3階研修室

出席：小野英男委員（会長）、弦巻岳委員、西村まどか委員、石垣学委員、齋藤邦子委員、阿部純子委員、西村修委員（副会長）、村形弘也委員  
前田社会教育課長、伊藤社会教育課長補佐、眞嶋社会教育主査兼社会教育係長、菅原社会教育係調整主任

地域創生部交流観光課齋藤主査

小林ミライニ所長兼酒田市立図書館長、佐藤ミライニ副所長兼酒田市立図書館副館長、角田ミライニチーフ（総務）、佐藤ミライニチーフ（観光）

欠席：佐藤委員、本間委員

早退：西村委員（～午後3時まで）

傍聴：1名（1名申込者欠席）

### ○改選に伴う委員委嘱の報告

再任9名、新任1名（弦巻委員）

### ○開会要件の確認

酒田駅前交流拠点施設ミライニ設置管理条例施行規則第3条第2項の規定により、委員の2分の1以上の出席があるため、開会要件を満たすことを確認。

### ○会長・副会長の互選

自薦・他薦なく、事務局提案の小野英男委員が会長に、西村修委員が副会長に就任

1 開 会

2 課長あいさつ

3 新任委員・職員紹介

4 会長互選

5 報告・協議事項

(1)酒田駅前交流拠点施設ミライニの運営状況について

**主な意見・質問事項**

- ・中堅教諭資質向上研修について、学校との繋がりを持つという面で意義を感じるが、司書教諭などが来るのか。授業等もあるとおもうが学校側との調整はどうなっているのか(委員)
- 研修については教員の必須研修で、研修受け入れ企業のリストからミライニを選んだと伺っている。小学校の先生の中には司書教諭で図書担当の方もいたが、高校の方は情報科の、全く違う分野の先生だった(事務局)
- (会長から補足説明を求められ)悉皆の研修である。勤続何年目かで民間企業等ほかの業務を体験してみるという必須の研修。リストにある協力企業等から研修先を選び、授業に支障がない夏休み中の2,3日間行くもの。日頃、子どもや保護者と接するので、それからかけ離れた寿司店、洋菓子店などで接客や皿洗いなど体験することが多い。別分野から学ぶことが多いということだろう。ミライニも酒田の顔ということで受け入れ企業に選ばれたのではないか。また学校には必ずしも司書の資格を持った教員がいるわけでないことから、こういった形で研修したいと考える教員もいるだろう。本校の教員にもいたらぜひミライニを薦めたいと個人的に思う(委員)
  
- ・子ども向けイベントが多数あり、ファンを作る、本と親しむという点からとても良い。一方で高校生は県立図書館も同様だが、どうしても学習の場としての利用になってしまう。展示も多数行っているようだが、いかに本に向かわせるかということについての対応は(委員)
- たしかに中高生の貸出数はあまり伸びてはいない。まずは図書館に来てもらうことを目標に、アートイベントはじめ学生が興味を持ちそうなイベントを開催している。また話をしてもいい図書館ということで、読書や勉強のほか、遊ぶ場所、待ち合わせ場所としても選ばれている。放課後の居場所としてメイクをしている女子高生がいたりおしゃべりを楽しんだり、休日を含めコミュニティの場になっていると感じる。従来の図書館のような個人の勉強目的も半分程度いる。一方で自由に利用できるホワイトボードを使って数式を書きながら勉強している子がいたり、コミュニケーションをとりながら図書館で過ごすというのが今やっと第2段階まで来たのではないかと思う。本を手にとってもらうことは難しく、中高生がいる近くにYA本を設置・展示するなど他の図書館同様、地道な活動を続けている。また市に相談しながら良質なライトノベルの購入も詳しいスタッフが中心となり少し増やしている。これは中高生のほか3,40代男性の利用増という想定外の効果もあった。興味のある本を置くことが大事ではないか。大判のアニメ雑誌を置いたら若者の貸出も多い。上質な本といえるかわからないが、活字に慣れて将来的に読書できる

子どもたちが育っていけばと、まずは親しみやすい書籍を置いている状況である（事務局）

・イベントが多数行われているが、スタッフの負担が非常に大きいのではないか。（委員）

→負担は確かに大きい。マルシェひとつ開催するにしても食品衛生、保健所、消防関係、領収書、インボイスなど多方面の専門知識が必要になる。現在5人の専任チームを作りそこが中心となって企画運営の手順を決め図書館スタッフに協力してもらっている。5人もかなり慣れてはきたが、図書館司書としては経験したことがないタスクという点で、大変だったと思う。一年経てなんとか形になってきたか。人口減少の中で今後地方の図書館は各種イベント開催を求められるようになり学ぶ必要がでてくるだろう。我々も最初はプロの方にお金を払い運営をお願いしノウハウを学んできた。ようやく、メインの5名がいればイベント開催ができるようになってきたところである（事務局）

・様々なイベントを開催しており市の広報に載っているようだが、今回の会議資料とあわせて送付された猫の日イベントやマルシェのチラシなどはミライニに来ないとないのか。情報発信方法は（委員）

→Instagram にアクセスすればすべてのイベント情報を得られるようにはなっている。フォロワーは当初目標の千人を超えたところである。若者が中心とおもわれる。フェイスブックは128人、世代は上だろうがこちらも同様に情報を得られる。チラシについては大きいイベントの場合は市役所や公益大、文化施設等に設置しているが、人の集まる商業施設にはできていない。一方で子ども向けのおはなし会や絵本作家講演会のようなもの場合は学童や保育園等にも配布している。どこにあったほうがよいか、助言いただきたい（事務局）

→勝手にではあるがチラシをコピーし園で配布したり拡大して貼ったりしたら保護者からも反響があった。職員も知らないようだったし子供も関心を示した。ミライニに来ればチラシがある、ネット社会なのでそちらで情報を得られるというのもわかるが、子どもも楽しめそうなものは園にも情報をいただければありがたい。各園で掲示することができればよいのではないか（委員）

→図書館利用が少ない働き世代への発信は課題なので園や学童に送ることも検討したい（事務局）

・前回話題にした読書手帳について、保護者に声掛けしてもやはり使うのは難しいようだった。2月に実施した「読書手帳を使いこなそうツアー」、参加できなかったのてどういものだったのか教えてほしい（委員）

→家読講座の一環として実施。ミライニには貸出した資料をシールタイプで印刷できる機能があるので出し方を説明したり、図書館側ではルール上保持で

きない個人の貸出履歴情報を、各人のスマートフォンでボタン一つで記録できるようにする機能を紹介したり等。来年度は家読について力をいれたい。アニメーションという読書の仕方の一つの手法について詳しい先生をお呼びできそうなので、今後は読書手帳も合わせて読書の学びにつなげていきたい。(事務局)

→素晴らしいことをしているのだから広報活動に力を入れてほしい。アピールしたい層に届くよう、Instagram をみればよいということであれば市のページにリンクを張るなどしてアピールすることが大事。もったいない(会長)

- ・スタンプラリーについて、飯森山や山居、日和山に中通中和会等市内でも分散している拠点をミライニを起点につなぐようなイベントを今後も協力していくので増やしてほしい(委員)

- ・高校の図書委員の研修会でポップを作りそれをミライニで展示していただいた。地区内外の高校生が交流し、協力していける図書館イベントとして続けていきたい。また個人的に各種イベントに参加したところ、孫の手を引いてナイトウォークという方もいた。図書館としてだけでなくイベントの場として利用している方々もいると感じた(委員)

→高校生作のポップにより、ミライニ職員も、実際に今の高校生がどういったものを読んでいるのか知る機会となった。今後もぜひよろしくお願ひしたい(事務局)

- ・学区の小学生もミライニを放課後の待ち合わせ場所にしたりとても活用しているようだ。中高生は利用は増えていても貸出が横ばいである。興味を引く、本の方に引き込む何かがあればと感じる(委員)

- ・11月のダイヤモンドプリンセス号来航時、ミライニでの歓迎イベントに浜田小の3年～5年生も参加し外国人の方と交流する機会を得た。その後、本校のメールアドレスにアメリカからメールをいただくなど繋がりができ子どもたちも感激していた。またこういう機会をいただけるとありがたい(委員)

→ダイヤモンドプリンセス号の歓迎イベント等は次年度はミライニ以外を会場にする予定となっている(交流観光課)

- ・(展示やイベントなどの)年間スケジュールを大学の事務にも事前にいただければ、大学の蔵書でも合わせた展示をすることができる。これは大学院とはすでにやっている。(委員)

- ・進路学習に使える資料やイベントを実施しているのはとても良い取り組みな

ので続けてほしい。その職になる方法がわかる、というのは重要。大学ではブリオトークを行っているが、ライトノベルや文芸書等を持ってくる学生は多く、また入れて欲しいという要望も来る。しかし大学図書館は学術書が中心となるため購入が難しい。高校や大学に、月1程度でよいので進路学習や文芸書、ライトノベルの新刊情報を入れてもらえれば効果があるのではないかと感じる（委員）

- ・イベントは楽しんでいるが、いつ何をするのか予定があらかじめわかるようになれば学生もアルバイトのシフトをずらすことができ若い人も参加しやすいのでは（委員）
- ・これだけのイベントの数々を知らずいたことをもったいなく思う。またリピーター含めた数だろうが入館者数とイベント参加者数をみると入館者もイベントを把握していたのか、周知にミライニの一層の活性化のカギがあるのではないかと感じる（委員）

## ②観光案内所運営について 「資料2」（説明 佐藤チーフ）

### 主な意見・質問事項

- ・（以前の会議で指摘した）JRのミライニへの案内が大きくなったことについて、効果があるとおもう。対応に感謝（委員）
- ・休日昼にバスベイを利用するとミライニでいろんなイベントをしている。下り特急いなほの客も、乗り継ぎ特急券割引が廃止となる4月以降は実質値上げとなるためJRで酒田降車のキャンペーンをすることが考えられる。この客の待ち時間をどのように過ごしてもらいかわかりやすくする工夫を（委員）
- ・休日にミライニに来たらゲームのイベントをしていたことがあったが、バスで一緒だったゲーム好きな少年は知らなかったためカラオケに行ってしまった。光陵高情報学科や市の情報企画課などでゲームやIT関係のイベント等を行うときは大学にも情報をいただけるとありがたい（委員）  
※おそらく10/9スポーツの日に、有償でA棟管理組合が場所を貸し出している光の湊ロビーで酒田エフエム(株)主催、NTT東日本特別協賛で開催したe-Sportsフェスタのことと思われる。e-SportsやVR体験、デモ大会などが行われた。
- ・展示をいつも楽しみにしているが、複製原画展について、原画展に比べれば物足りない点はあるものの、見せるということは大事。できれば常設で周辺美術館の常設展示の複製の展示等できないものか。土門拳記念館や本間美術館

等の常設展を見てみようかという意識付けにもなるのでは（委員）  
→周辺美術館のポスターは掲示しており、さらに関連書籍の展示もしているが、  
観光案内所ともう少し関連付けるようにしたい（事務局）

③管理運営事業について 「資料3」（説明 角田チーフ）

(2)令和6年度事業計画について 「資料4」（説明 佐藤副所長）

### 主な意見・質問事項

- ・小学生がいろんな形で活用できるよう、啓発活動を行いたい。また浜田小では公益貢献活動を行っており、来年度は酒田市の良さや学んだことをミライニで発表させていただければと考えている。よろしくお願ひしたい（委員）
- ・障がい者の方への読書バリアフリーについて詳しく説明いただいた。機材もあるということで、こちらからも機会があれば必要とする方に情報提供をしていきたい（委員）
- ・毎年ひらた図書センターに園児を連れて行っているが、来年度はミライニへぜひ連れてきたい。また子どもにいくら本を読むように言っても大人が、職員が興味を持たなければ始まらないので、職員へも伝えていきたいとおもう（委員）
- ・なかなか予算が増えない中で継続事業、新規事業というのは大変かとおもうが、今回の予算と事業を組む上で工夫したことがあったら教えてほしい（委員）  
→図書館畑とは遠いところではあるが、今年度、鉄道沿線活性化の助成金50万円をいただいた。これはJRや駅周辺を活用するためのイベントへの助成である。ミライニではスタッフが複数人、食品衛生の資格を得て、酒類販売を含むイベントを企画。自分で運転して帰れないようにすることでJR利用へ誘導するなどした。助成金だけでなくクラウドファンディングについても研修を受けたりしている。ミライニは比較的恵まれた予算を得ているが、+αでなにか大きなことをするときにはやはり助成金について調べる。また来年度は、申請するかも未定であるが、アカデミックな方向の研究に関する助成金について、自社の専門性を高めながらその事業に対する助成金を獲得できるよう、論文を書けるスタッフと一緒に勉強会を進めている。  
また、支出については、公共図書館は無料だったり公共性への配慮を求められるが、クオリティの高いイベントを開催するにあたっては参加者に相応の負担をしていただいている。先日は参加費二千円のリース作りイベントを開催し、数万の経費が1万円強で済んだ。市民の知らなかったイベントに触れる機会を創出し、ご負担をいただきながら協力してよいイベントを作っていくのがミラ

イニスタイルと考えている。そもそも市の方針として提案事業費 2 百万円がついている。これは街の活性化やイベントのためのもので、他自治体の様々な指定管理を知っている（TRCの）立場からみても非常にまれなケースである。通常の図書館のおはなし会や映画上映会を超えた事業を行うというのは会社としても他に例がないので、酒田市のスタッフは非常に苦勞して、市民から認知され参加していただいているところである（事務局）

### (3) その他

- ・交流観光課はミライニ・担当部局と毎月情報交換させていただいている。今後も引き続き協力をお願いしたい。情報発信という課題は共通のものであり、イベント情報がなかなか伝わらないという同じ悩みを抱えていると感じた。度々話題に上がったクルーズ船の受け入れについて、11月は時期的に初めてで中々できるということの中町と分散し、ミライニという場で、スタッフや浜田小の皆さん、高校等にもご協力いただいた。来年度は4～10月、通常通り中町で受入予定である。ただし駅を利用し移動する人々は利用するかもしれない（交流観光課）
- ・役目柄色々な会議に出ているが、この会議は未来が明るく感じる大変貴重な会議である。皆さん一生懸命に取り組んでいるというのはよくわかるので、それが市民や対象とする方々へ届くように、例えば権利的に問題なければ市内36の各コミセンへチラシのデータを付けメールを送信し、白黒でいいので打ち出して各自貼ってほしいと依頼するなど、情報発信を工夫して取り組んでいただきたい。（会長）

## 6 閉 会